

# やいた未来ミーティング（子育て世代）会議録

日 時：令和元年11月21日（木）

19：00～20：40

場 所：生涯学習館

出席者：市長

安沢小学校PTA役員 8名

1 開 会 19：00 進行：秘書広報課長

2 あいさつ 矢板市長

平成28年7月から2年間をかけ、矢板市内65行政区で「未来づくり懇談会」を行った。1,100名を超える市民の方から意見や要望があったが、参加者の8割は60歳以上という状況であった。それを受けて平成30年度は「未来づくり懇談会」を補完する形で、子育て世代や市内3つの高校生、矢板市PTA連絡協議会を対象とした「やいた未来ミーティング」を10回開催した。今年度は、小中学校単位で開催し、意見や要望を聞かせてもらいたい。

3 説明事項

「矢板市子ども未来基金の創設について」

市長

この基金を始めたきっかけは、子ども医療費助成制度の問題からスタートした。矢板市では、平成24年度から高校3年生まで医療費の無償化をしているが、無償化の方法としては、医療機関の窓口で支払い後、手続きをしてお金が戻ってくる償還払方式。

近年、栃木県内の市町では、医療機関の窓口で支払いが必要ない現物給付方式が増えてきたことから、矢板市としてどうするかを平成30年度に検討を行ったところ、同じ医療費の無償化でも、現物給付方法にすることで、矢板市の負担額が大幅に増えることがわかった。

理由としては、病院に行くほどでもない病気等であっても受診してしまう医療のコンビニ化や、国の負担金や県の補助金の減額がある。また、他の医療費助成制度を利用しなかったり、各種健康保険の付加給付が受けられないなどがあった。他にも小中学生など加入している、日本スポーツ振興センター保険を手続きが面倒くさいと言って利用しないなど複数の要因がある。

現物給付を行っている市町の医療費の伸びを見て試算したところ、中学3年生まで現物給付を拡大した場合には年間4,500万円、高校3年生まででは年間6,200万円も負担が増えることが確認された。

これらの要因を踏まえ検討した結果、市としては現物給付ではなく、中学3年生まで

拡大した場合の4, 500万円をもっと違った使い方にしようと、子ども未来基金を創設し、子ども子育て支援に繋がっていくような取り組みをしようと決断をした。

基金の用途については、平成31年2月から3月にかけてPTA役員にアンケート調査を実施し、1番多かった給食費の助成と4番目の小中学校の学用品購入の助成とした。2番目に多かった予防接種の助成拡充については、平成31年4月からインフルエンザの予防接種の助成年齢の拡大が1月の時点で決定していたことから除外とした。3番目の学校施設の整備や備品購入についても、具体的な内容を聞いてみたところ、エアコンの設置であった。エアコンの設置についても、1月の時点で全ての小中学校の普通教室にエアコンを設置することで決定していたことから除外とした。

本年度は、基金4, 500万円の3分の2となる3, 000万円くらいを使用する。

また、償還払い方式の利便性向上として、我々の努力不足もあったかもしれないが、平成30年度に実施した懇談会で、1レセプト500円かかるとか、申請方法が複雑、郵送申請についても意外と知られていなかったことから、平成31年4月から子ども医療費の申請書類と郵便受取人払いの封筒を医療機関に設置することとした。

償還払いは面倒だと思う方は多いと思うが、まだまだ利便性を向上できるのではないのかと思っているので、市では現物給付の対象年齢を引き上げないという選択をした。

その上で限られた財源用途を、引き続き皆さんをはじめとする小中学生の保護者の方から声を聞きたい。年度末にはもう少し広い範囲でアンケート調査をしたいと考えている。ムリ、無駄のない「矢板モデル」という医療費助成の制度や、子育て支援制度を確立していきたいと考えている。

### 3 意見交換テーマ

「子育てしやすいまちづくり」

市長

テーマに入る前に材料を提供したい。本年度の矢板市立小中学校5大ニュースということで、一つ目は全国学力テストで市内の小学6年生が昨年につき、全教科で全国平均を上回った。全国学力テストは、全国の小学6年生と中学3年生を対象に毎年実施をしているが、市内の小中学生は昨年度まで、県の平均はもとより、全国平均で上回ることはなかった。昨年度の全国学力テストでは、教育委員会のいろいろな取り組みが功を奏し、小学6年生の国語A・B、算数A・B、理科の全ての教科で県平均、全国平均を上回った。本年度も小学6年生は全教科で全国平均を上回ったところ。今の教育長になってから、学校での授業改善の努力と家庭学習の取り組みの成果が具体的な形になってきたと思っている。今後ともさらなる学力向上に取り組むと共に、中学3年生については全国平均を全教科で上回ったことがない状況なので、中学生の学力向上に結びつけたい。

2つ目は、全ての小中学校普通教室にエアコン設置ということで、6月末までにエアコン設置をした。

3つ目は、トイレの洋式化。平成28年の洋式化率は24.2%。県内25の市町で最下位。平成29年度に矢板中学校の整備、本年度は東小学校での工事が間もなく始ま

る。また、矢板小学校分も国の予算が付いて、年度内に整備を進めていく。

4つ目は未来基金。5つ目は、小中学校の適正規模・適正配置の建議だが、現在、計画づくりが内部で進められている。安沢小については複雑で、中地区は東小、安沢地区の片岡地区。委員会の案では、小中一貫校を片岡地区に造るという方向性が示された。施設一体型の小中一貫校が分かりやすいと思うが、1つの敷地の小中学校を造ってはというもの。最近では、小中一貫校でなく、義務教育学校も県内で出来ていて、現在の小学校6年、中学校3年ではなく、例えば、5年・4年とか、4年・3年・2年とかにして、特色有る学校にしてはどの提案となっている。ただ、仮に小中一貫校になっても、今の敷地の問題などが難しいことや、小学校の統廃合だけ先行するのかなど、課題があるので、すぐと言う訳にはいかないと思う。また、中地区も東小となっているが、職員室が手狭な面や、校舎自体の老朽化などもある。今の案では東小には豊田小、川崎小のJR線の東側、安沢小の中地区となると、どうなのかという話もある。ただ、安沢小は推計で言うと、今年度が106人。来年度は2桁になってしまう。少し戻るが、今後100人スレスレぐらいで推移していく。

#### Q1

保護者

学力が高いところの教え方を学校同士では共有しないのか？

市長

最近では、指導主事が模範授業を見せるなど、取り組みは行っている。いろいろ工夫はしているが、学校単位というのもあるし、家庭学習をどうするかというのもある。今の教育長は力を入れている。ノートコンクールなどで工夫したりして、学力テストで少しずつ成果として現われていると思っている。

#### Q2

保護者

統廃合の話があったが、矢板の土地利用計画はどうなのか？安沢小の方は全く分譲がない。川崎の方は新築でいっぱい建っている。

市長

オータニの辺り？

保護者

そういう所には若い夫婦がいて子どももいる。4号線の東側は全く手つかず。ハッピーはあるが、年代は大人になっている。

市長

大きい分譲地が矢板に少ないというか、造りづらいという問題があると思う。つつじが丘は、栃木県住宅供給公社という県の外郭団体が、自前で用地を買収し、造成して売っている場所。木幡は市が土地区画整理事業を行って用途を指定した。実際はグランディハウスや小堀建設などが分譲しているのだから、市が用地を買って分譲地を造成することはできない。安沢小学区で言えば、中市営住宅の南側を緑新が造成し分譲している

思うが、安沢地区や中地区などは農地が多い。農地を開発するには農地転用許可や、場合によっては農振除外の手続きもあるので開発は進みにくい。道の駅周辺の開発が進まないのと同じ。

保護者

子ども達の推移をみると開発が進んだところは増える。減っているところは商業施設もないし、広がるところもない。

市長

乙畑小の児童が増えているのは大きなヒント。当たり前じゃないかと思うかもしれないが、つつじが丘のおかげで他の学校は軒並み減っているがここは増えている。矢板地区の話になるが、矢板駅の西側もまとまった分譲地があれば、私は若い人達にどんどん住んでもらえると思っている。矢板駅西側で分譲ができないのは、実際の境界と法務局備え付けの公図と登記簿が一致をしてない公図混乱地域のため。3,000㎡くらいの土地があっても分筆できないというところが大きな問題だと思っている。

保護者

仕事で法務局に行くが、地番も違うし土地の名義も違う。

市長

矢板駅西辺りは特にひどく分譲地ができない。矢板の街なかも最近空き地や空き家が増えてきたが、不動産業者から話を聞くと、昔ながらの近所付き合いをしている所が10軒位あって、その中の1軒が空き家、空き地になったとき、そこに若い子育て世代が安いからといって行くかと言えば、行かないと言う。いくら街なかで便利で市役所や学校やスーパーや駅が近いと言っても、そこには多分建てないと思う。

つつじが丘のようなニュータウンは、大体同じ世代の人がいて新しいまちを造る。つつじが丘は200何十軒あるが、分譲地は10区画ぐらいあり、大体同じ年齢層の人が入る。大体若い世代が入ってきて新しいコミュニティをつくる。市でできるとしたら、扇町の元保育所だった市の広い土地がある。あそこは公図が混乱していたが、地籍調査を行って境界を確定し、分筆できるようになった。ちょっと形は悪いが。市で持っているでも仕方がないので売りに出す。不動産屋に買ってもらう。そこで、新しい住宅地を造成してもらうといったこと。

保護者

道路が狭い。

市長

安く売りだして10区画ぐらいになれば。地籍調査は昨年度はじめて矢板の中心市街地4haを行った。今年度は24haに拡大し、ダイユー辺りなどを行う。

保護者

元のカインズホームの所は？

市長

去年調査した。個別の事例で言うと矢板小南側に食品会社が以前あったが、そこも分筆できないので、全部買ってもらうか、全部借りてもらうしかない。いい場所があっても開発できない。開発ができないと分譲地もできないので、できるような基盤を造るの

が市役所の役割と思っている。

保護者

市役所の方で動いてくればこの先どんどん変わっていくのでは。

市長

西那須野の二つ室などには分譲地がどんどん出来ているが、矢板駅前の方がよほどいいと思う。また片岡公民館の南側の空き地なども。公団混乱や元々は池だったので地盤が緩いので杭をいっぱい打たなきゃダメだと言うかもしれないが、あそこ片岡駅の県道と4号に挟まれているし、サンユーもあり、片小・片中に行きやすい。

保護者

湿地帯は改良すればいい。今の技術があればなんでもできる。活用するかしないか。その案を誰が出すか。結局一般市民の私たちが言ってもその案はどこへも行かない。

市長

公団混乱で沼地の所は線路の向こう側。片岡駅の西側まで地番が飛んでいるらしい。

保護者

親が死なないと分からない。うちもそうだった。

市長

そういうのが矢板の街は多すぎるので、環境づくりが市の仕事と思っている。

保護者

子どもが戻って来なくなってしまうから大事なこと。

市長

乙畑小の子どもの延びという所は大きなヒントだと思う。

保護者

アパートもあると聞いたことがある。

市長

アパートで言えば、矢板はアパートの数が多い。また矢板市は人口100人あたりの市営住宅の管理戸数は県内25市町の中で一番多い。中市住は政策空家といって新規の人は入れないようにしているが、負担は非常に多い。最近、宇都宮市では民間アパートを借り上げ、家賃を市で一部負担することもしている。

### Q3

保護者

中市営住宅に住んでいる。共益費などを住んでいる人達から集金しているが、非常に大変。

市長

市営住宅は施設管理公社が全面に出て行っている。管理の主体を変えたのでお金預からなくていいとなるかは別だが、民間の宅建業業界などに管理を委託しているケースがどんどん増えている。木幡北山県営住宅の管理は、県北地区の宅建業協会で作って行っている。共益費は分からないが、管理のあり方は変えていかなくてははいけないと思う。

保護者

集金はいきなり説明されても困った。1号棟に関しては光回線が届いていない。他の棟には届いているので、その分の補助金みたいなものを配ってとか、聞いても理解できない。

市長

預かって施設管理公社に確認する。中市営住宅については1～5号棟までであると思うが、長寿命化というような事で、雨漏りを直すなど、予算的な余力は残念ながら矢板市はない。入居者の大部分が年配の方でもエレベーターが付いてないなど。

保護者

個人の意見だが、修理しようという意見はいらぬ。そういうところに住んでいるのだから家賃も安い。その施設で不備がない程度に修理すればいい。トイレが流れる、お風呂が使える。シャワーはなくても理解してもらい電気も使える。そういう建物だということで、それ以上を望むのであればお金を出して普通のアパートに住めばいい。

#### Q4

保護者

5大ニュースの一番目に学力調査の全国平均を上回るといういいニュースが出たので、是非とも体力面でも全国平均を上回るような環境づくりできればいいと個人的に望んでいる。

市長

部活動やクラブチームなど、私たちが子どもの時とくらべて、どこから手を付けて行っていいか分からないところもあるが、安沢小ではどうか。

保護者

スポーツという見方。部活動という見方も1つヒントになると思うが、それ以前に遊ぶ場所がなくなっている。私たちが小さい頃は、近所の友達と川や山で走り回って遊んでいたという記憶をお持ちだと思うが、どうしても今の子ども達は習い事や塾などで忙しくなってしまう、外遊びをしなくなってしまった。部活をするのではなく、子ども達が自由に遊び回れる環境を手に入る状況をつくっていくことで、運動への喜びやスポーツがやりたいと思うきっかけになるのでは。

市長

今日は小学生、安沢小の保護者の皆さん対象の意見交換だが、もう少し未就学児ぐらいから体を動かすとか、そういった習慣を身につけてもらえるような仕組み作り、仕掛け作りみたいなものが必要。とちぎフットボールセンターもできて、当初の見込みを上回る方に利用してもらっているが、サッカーだけではなく、そういった外遊びとかちょっとした子どもの運動なんかにも使ってもらえるような何かがあればいいなという気がする。

保護者

お金をかけて場所を造るとかに力を入れるのではなく、親たちの意識を変えるような啓発が行き渡るような環境があれば。公園に遊びに行っても、他の子どもに怪我をさせ

てしまったらどうしようと気を遣ってしまう。公園に行っても、結局母子で遊んでいるような状況なので、大人が関わってしまい、危ないからと制限をかけてしまうことがよくある。子ども達が自由に遊べるような環境があれば、子どもの自立にも繋がるとともに親へのきっかけを与えてあげてほしい。

市長

子どもというより親に対するアプローチ？

保護者

そこだと思う。何か自分でやってみようと片岡公民館の南側の空き地を借りて、すり傷、切り傷、怪我をしてもいい。遊ぶ場所を作ってみようと思い企画をした。そういうことをすればアンテナを立ててくれている人達に広がって行ければと思い行動を起こしてみた。

保護者

親も面倒くさくなってきてしまう。

保護者

トラブルがあったら嫌だなとか

保護者

子どもが遊んでいるところをおじいちゃんおばあちゃんが見守れるような環境が。お元気ポイントを利用して、そっちに持って行けると有難い。

市長

安沢小は学童保育があるが、乙畑小は放課後子ども教室と言って地域の年配の方がボランティアベースで学童を行っている。そんなことから伸ばしていくというのもあってもいいのかもしれない。

保護者

難しいことだとは思いますが。

市長

余談になるが、矢板南ファイターズと言う野球の学童のチームが県大会で準優勝した。お父さんが監督、コーチだけでなく、地域の皆さんが指導にあたってもらったというのもあると思う。親御さんの共働きは当たり前なので、見守りができるかと言ったらできない中、どういう方達にやってもらえるかというところも必要になってくると思う。

Q 5

市長

安沢小の施設はどうか？

保護者

天体望遠鏡をもっと使って欲しい。天体観測は年に一度しかやらない。

保護者

他の小学校でも使ってもらえれば。

Q 6

市長

お弁当の日が矢板市は多すぎるという意見が他の学校であったがどうか。

保護者

小学校ではあまり違和感がない。年3回プラス遠足など。

市長

年3回プラス遠足や校外学習。たまたま給食費助成で何とかならないかと言われたがどうか。

保護者

那須塩原市は弁当の日はゼロ。終業式でも何かの式でも必ず給食が出る。

市長

給食費4,500円についてはどうか。

保護者

4,500円はいいから、お弁当を減らして欲しい。

市長

減らして欲しい？そういう声か。

保護者

大体同じ食材をママ達は入れるので、市内のスーパーからブロッコリーが消える。

保護者

道の駅で野菜買えばいいのだろうが、昼間に行けない。

保護者

運動会もそう。

保護者

台風の前もそうだったが何もなくなってしまった。

Q 7

市長

子ども未来基金の使い方についてはどうか？給食費をもっと減らして欲しいという話がある一方で、教材費の方がちまちまと集金されるので、教材費の方がいいという声があるが。

保護者

給食費の方がいい。

保護者

親として子どもに食べさせるプライドはないのか？

保護者

ない。タダのところもある。

市長

ただの所は大田原だけ。

保護者

今の給食費だっていくらか市が足してくれている金額。

市長

給食費がいいか？教材費がいいか？それこそ別の学習塾クーポン券なんていうのも提案としてはあったが。

保護者

基金はどうなっているのか？

市長

平成31年3月定例会で基金を作って積んだ。毎年度積み立てる予定だが100万円寄付してくれる方が出てきたりしている。

市長

母親からすると、現物給付の方がいいのか？

保護者

現物給付の方がいい。

市長

1人1万5千円くらいは何らかの形でお戻しできるぐらいの財源はあるのかと思うが、現物給付の方がいい？

保護者

はい。

保護者

誰でも行ってしまう。小さいことで何でもないのに病院に行くというのがあると思うが。

保護者

誰でも行ってしまうと言われてしまうと。子どもを持つと心配。知識のある人に聞きたい。それなのにその為にお金が使われてしまうと言われてしまうのは侵害。

保護者

恥ずかしながら6年間一度も請求したことがない。手間と500円と言うのがあったので。先ほど500円がないと聞いて申請しようと思った。そういうふうに思っている方が4,500万円の中には少なからず含まれている。

保護者

高校まで貰えるのを知ったのが、最近でずっと出していなかった。

保護者

それはそうだが。広報が少ない。

市長

ちなみに、郵送で申請されたことは無いかも知れないが、それは知っていた？

保護者

職場で話をすると、なんで矢板はそんなことやっているのと。手間でしょ？とは言われる。

保護者

那須塩原、さくら市、大田原の周りの情報の方が先に来ってしまうので、どうしても比べる。矢板市は違う。どっちがいいというよりもこっちがいいに決まっている。

保護者

こういう理由も知らない。こういうふうになるから未来基金を。

市長

確かに申請しない人であると思うが、それは申請してもらって。十分対応できるように予算は組んでいる。

保護者

昔、那須塩原の黒磯にいて、そこから矢板に来たので、いきなり子どもにお金がかかる。病院に行けるかな？というのもあるし、面倒くさい。

保護者

1人親家庭なので1人で生計を立てないといけない。1人で家庭を支えるとなった時、まずは子どもを預かってくれるところを探さなくてはいけない。学童も19時までなので残業ができない。19時までに帰らなくてはならないとなると給料もその分少ない。そうすると月々の自分の給料が少なくなる。償還払いとなると子どもが熱を出したりして具合が悪くても今月はお金が厳しいから病院に連れて行けない。足らないと市販の薬で我慢させる。万が一病院に行っても市役所の窓口に行く時間がない。年に1~2回しか申請に行けない。申請の為に有給を使って行くような状況。郵送の話は子ども課の方から聞いたが間違いがあると送り返しての繰り返しになるので時間がかかる。

市長

時間がかかると言っていた？

保護者

言われました。なので、その場に行って書くしかないとなってしまう。でも、行く時間がない。期限は半年。

市長

今は一年になった。一年しかもたないが。

保護者

この月の申請がダメで、貰えなかったという経験が多い。

市長

分かりました。そういったことも十分に参考にさせてもらう。基金については1年目なので、使い道については、また皆さんの意見を伺いながら進めていきたいと思っている。現物給付の方がいいといい声があるが、仮に給食費と教材費だったらどっちがいいか？

保護者

給食費。教材費はあまりピンと来ない。

市長

教材費ピンと来ない？

保護者

4,500円なり5,000円を市の方で負担しているという文面なり、アピールが欲しい。何も知らずに少ない金額で言われたら、それを払えばいいとしか思わない。インフルエンザの件も1,000円割引されていると先ほど言ったから、この間1,000円安かったと思った。

市長

分からなかった？

保護者

今日来なかったら分からなかった。

保護者

結局、こういうのもそうだが形をつくろうとする。私たちは現実にリアル。現状でどうにかなる、どうにかするということでないとは分かりづらい。この先に給食費をどうにかします、教材費にしますと言われるよりもまず、現状を整えてほしい。

市長

現状というと具体的にどういうことか？

保護者

病院の件や、説明など。

市長

説明はまず、初年度だったので6月からはじまったので、ここに小さく書いてあるが、2月の引き落としはしないとか、教材費は学校ごとで徴収するので、どうするのかという話。安沢小の取扱いがどうなっているかは分からないが、できるだけこのチラシなども分かりやすくしたつもり。全部の児童・生徒に配った。ただ、先ほど話があったようにインフルエンザの予防接種助成を拡充したのに浸透していない。

保護者

金額を言われて「あれ？安い。」支払いは家族分払うので安くなってるなんて分からない。この病院安いと思ってしまう。

保護者

病院によって金額が違うので。

市長

市が頑張ってくれたと思わない？

保護者

思わなかった。ここの病院安いと。病院とかに全面的にアピールすべき。ポスターなどで。ポスターにお金をかけていると言われてしまう。コピーでいい。私も矢板市を知ろうとしていなかった。

市長

広報は見やすいと。よその広報に比べたら褒めてもらえる。みなさんはどうやって矢板市の情報を得ているのか？「やいこみゅ」とか「やいたぶ」とか。一番多いのは「やいこみゅ」？

秘書広報課

「やいこみゅ」が一番多い。4, 500人くらい。インフルエンザ助成は10月1日号の広報でお知らせしている。浸透していないという声が聞こえてきていたので11月11日にインフルエンザの助成をすると「やいこみゅ」でも流した。

保護者

見ていない。何それ？そんなものがあるのも知らなかった。

市長

給食費のチラシも。お子さん通じて分かりやすくして配付した。

保護者

2月になると有難いという人が増えるだけ。

市長

2月もなんで引き落とさなかったんだらうという話。

秘書広報課

引き落としのタイミングは学校によって違う。変えている。矢板中は1月に引かないと言っていた。1月引かずに2月引き落とす。

市長

このチラシはダメってことか？小学生だが。

秘書広報課

教材費に関しての取扱いも学校の事務の先生がまだ決めていないのだと思うが。こういうふうにするというのは学校から配布されると思う。

保護者

来て良かった。知らないことだらけ。

Q8

市長

本当に、皆さま世代、私も同じ世代のつもりでいるが、みなさん方から意見を聞くとか、皆さんの声を聞くのは本当に難しい。どうやればいいのか。どうすればいいのか？紙は読まない？

保護者

読まない。

市長

「やいこみゅ」とか「やいたぶ」は？

保護者

私は本当に知らなかった。

秘書広報課

アプリでプッシュ入れるようにしている。「やいこみゅ」もプッシュ入るが、4月から市の方で公式アプリをやっている。それなんかもプッシュ通知で入るようにしている。

保護者

防災無線で流してもらおう。

市長

そうしたらまた防災行政無線が聞こえないとか、一方でうるさいという所もある。これはどうしようもない。

Q 9

保護者

安沢は遊ぶ場所、集まる場所がない。子ども達がみんなで集まり、遊べる場所が少ない。あそこに行けば誰か居るという所。

保護者

安沢小の校庭でいいのではないか。

保護者

大きい体育館を建ててほしい。予算の問題になるが。

保護者

校庭でも何でも見る人がいない。

市長

見守りをしてくれる人はセット。

保護者

その辺は時代だ。私たちの頃は見守りする人はいなかった。自分でやっていけない、やっていいは自分の判断。

市長

自己責任。

保護者

誰かいて欲しい。近所の人だ。

市長

なるほど。遊ぶ所、集まれるところ。分かりました。よくそれは参考に。どういった形がいいのかは安沢小に限ったことではない。どこの小学校についても共通する話。それは他の事例なんかも参考にさせてもらい検討する。

Q 10

保護者

矢板市でバドミントンなど色々な教室をやっているようだが、開催日の大半は平日の夜。そうすると中々独り身のせいなのか難しく、子どもが行きたいと言うが、毎週この曜日、この時間だと仕事が早退できないので行かせられない。できれば土日とかで、どこでもいいがそういう時間も欲しい。

市長

講師の先生の都合とかあとは場所だと思う。土日だとどこも使う人が多い。教室だと毎週同じ場所、時間の制約があるかもしれない。

保護者

曜日等で借りづらくなっているのもある。

市長

市の体育館は22時までなのに、学校は21時半までしか貸さないのを何とかならないのかと言われた。そんな所を拡大していけば、土日にも会場確保できるというのはあるかもしれない。

保護者

体力づくりとかにも繋がっていく。

6 閉 会 20:40